日本学術会議
九州・沖縄地区会議学術講演会

地すべりの技術的課題と研究

－沖縄，島尻層群泥岩地すべりを事例として－

2008年3月1日
パシフィックホテル沖縄

琉球大学農学部
宜保 清一
（日本学術会議連携会員）

講演の内容

●地すべりとは？

● 地すべり事例とその特徴

●地すべり防止対策

工法，対策のための土質強度研究

安定解析研究

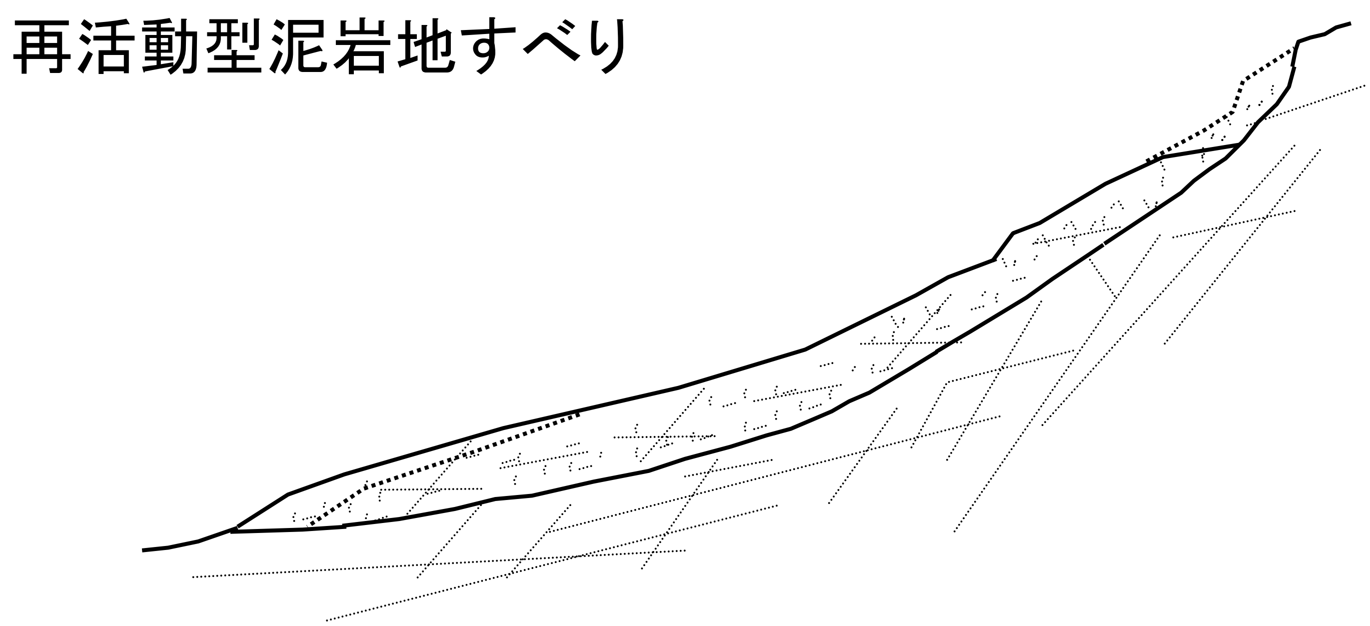
●斜面の危険度評価の課題と研究

評価マニュアル

●今後の展開

●斜面の危険度評価の課題と研究

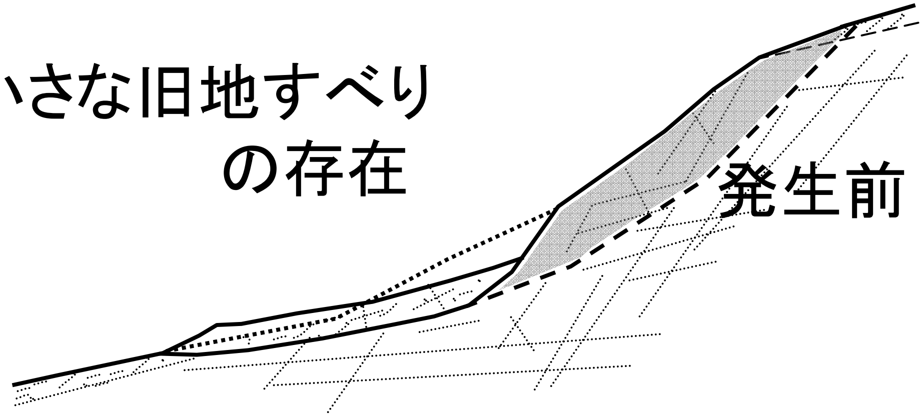
島尻層群泥岩地すべりの危険度評価の課題



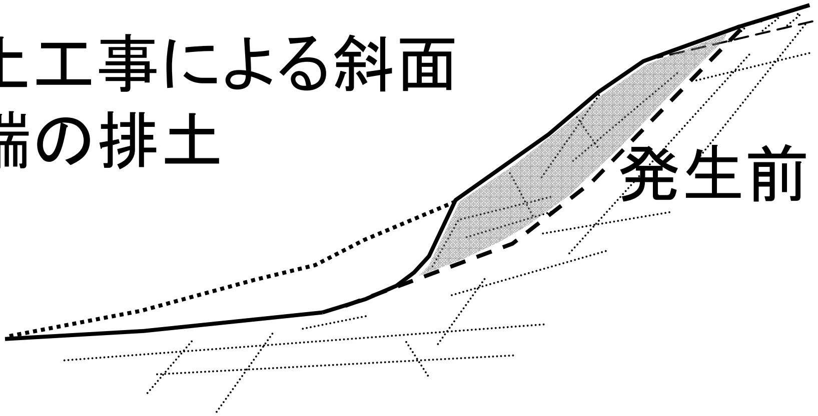
基礎調査マニュアルによる評価可

初生型泥岩地すべり

小さな旧地すべり
の存在



切土工事による斜面
末端の排土



基礎調査マニュアルにより評価不可

⇩

新たな危険度評価マニュアルが必要

●今後の展開方向

近年の地すべり災害の多発傾向
地球温暖化に伴う将来の被災リスクの高まり

国民の安全・安心の保証のため,
災害の未然防止
災害発生時における被害軽減が求められている

そのためには…
従来の『復旧型』対応からの脱却
未然に防止し軽減する『予防型』対応を推進すべき

単に莫大な経費を投入しておけばよいというものではなく、地滑り災害の危険性を研究成果に基づいて的確に評価・分析し、安定強化を図る低コストで合理的な防止対策です。精度の高い危険性評価のためには、『地滑りの発生メカニズム』、『地盤の不安定化を直接的に支配する土質強度』、その影響要因である『鉱物組成』などについてのさらなる研究が必要です